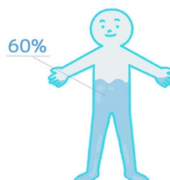


落雷事故の防止



©2010 熊本県くまモン

人体は約60%が水分であり、
電気を通しやすい



落雷の可能性のある場所
からの**避難**が重要

近年、全国では、天気の急変に伴う落雷事故が複数発生しています。

落雷による事故は、大きな被害をもたらします。

事故を防止することが最も大切です。

人体の構成を見ると、約60パーセントが水分であり、電気を通しやすいという特徴を持っています。

防止するには、落雷の可能性のある場所から避難することが最も有効であり、重要である、ということを認識しておきましょう。

雷に関する最新の正確な知識



©2010 熊本県くまモン

- ① 降雨や雷鳴が聞こえるなどの予兆がなくとも落雷は発生する
- ② 雷鳴が聞こえたときには、その元となった雷は自分がいる地点に落ちる可能性がある
- ③ 従来落雷を誘引すると思われていた物を身に付けていなくても、落雷の可能性は変わらない

次に、雷に関する最新の正確な知識を身に付けましょう。

1つ目に、降雨や雷鳴が聞こえるなどの予兆がなくとも、落雷は発生します。近年発生した落雷事故においても、予兆がなかった場合もあったとのこと。落雷が発生したのちに激しい雨が観測されることはめずらしくありません。

2つ目に、雷鳴と落雷範囲の関係です。

雷鳴が聞こえるということは、その雷は自分がいる地点から15キロメートル以内で発生しています。

落雷は、通常、雷雲の周囲の半径15キロメートルの範囲で地面におちる可能性があります。

つまり、雷鳴の元となった雷はいつでも自分がいる地点に落ちる可能性があるのです。そのことをしっかりと認識しましょう。

3つ目に、身に付けている物によって、落雷の可能性が大きく変わることはありません。

人形を使った落雷の実験では、金属のアクセサリーを身に付けている場合とそうでない場合で、落雷の回数に差異はありませんでした。

皆さんも、自分は金属物を身に付けていないから大丈夫というような間違った認識は持たないようにしましょう。

避難の方法

落雷の危険

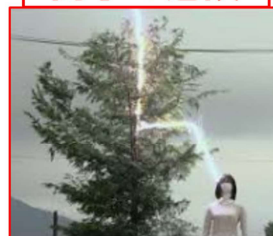
まずは

安全な屋内に避難

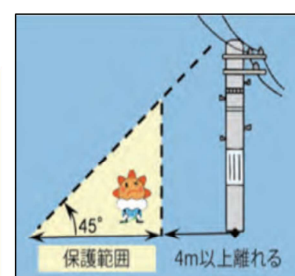
難しければ

- ・できるだけ低い姿勢
- ・電柱や鉄塔から4m以上離れた位置に退避(右図参照)

木の近くは
側撃の危険



©2010 熊本県くまモン



避難の方法です。

落雷の危険がある場合には、まずは安全な建物の中に避難してください。自動車やバス、電車なども避難場所として有効です。

避難した際は、万全を期して、壁やドアから離れておきましょう。雷の電撃は、壁やドアを伝って地面に向かいます。

もしそのような避難場所がない場合は、できるだけ低い姿勢をとりましょう。また、右の図のように、電柱や鉄塔などの高い物体を45度以上で見上げる範囲で、その物体から4メートル以上離れたところに退避することも有効です。

木の近くは、雷の電撃が飛び移る、側撃という現象が起こる可能性があり、非常に危険です。木のすべての幹、枝、葉から2メートル以上は離れてください。木よりも人間の方が電気を通しやすいために、この現象が起こることがありますので、必ず覚えておいてください。

雷についての情報の取得

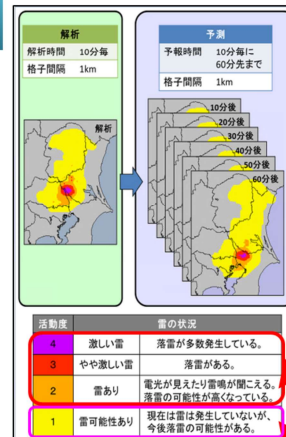
「雷ナウキャスト」の活用

60分先までの10分刻みの発雷予測を表示するシステム

スマートフォンや
タブレットで
実際に見てみよう！



<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>



©2010 熊本県くまモン

オレンジ
以上は
即避難！

黄色は
要注意！

落雷事故防止の上で、非常に重要なことが、雷についての情報の取得です。情報の取得のために、気象庁の「雷ナウキャスト」を活用することを心がけましょう。このシステムは、60分先までの10分刻みの発雷予測を表示するものです。予測は10分毎に更新されますので、随時最新の情報を取得することができます。

雷ナウキャストを見て、自分がいる場所に危険が迫っていないかを確認しましょう。

雷ナウキャストでは、雷の激しさを表す活動度を1～4に分け、黄色、オレンジ、赤、紫で表しています。活動度2以上のオレンジでは落雷の危険が迫っている状況ですので、直ちに身の安全確保の行動をとる必要があります。

では、実際にスマートフォンやタブレットを使って雷ナウキャストを見てみましょう。

～ しばらく操作する時間を設定 ～
正しい知識を身に付けて、自分を守る力を身に付けましょう。